

Gloria in excelsis Deo.

Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.

Laudamus te. Benedicimus te.  
Adoramus te. Glorificamus te.



# The Littlest Angel

天使のし

2007年 クリスマス号

第173号

## 聖句

わたしの目にあなたは価高く、尊く  
わたしはあなたを愛し  
あなたの身代わりとして人を与え  
国々をあなたの魂の代わりとする。

イザヤ 43-4



## スペインのクリスマス

シリロ・オラデレ 神父

私にとってクリスマスは懐かしく楽しい事です。

子供の時、クリスマスは一年中で一番素晴らしく楽しいことでした。小学校では12月初めから子供達は馬小屋に使う為に山へ苔を取りに行ったり、ろうで羊や羊飼いの人形を作ったりして皆で馬小屋を作りました。馬小屋の中で皆が一番愛していた動物は、牡牛と馬です。何故なら、あんな冷たい寒い馬小屋の中で生まれたイエズス様を自分の息で温めてくれたからです。

暖房のない村の教会の中でその夜のミサは、とても親密な素晴らしいものでした。マリア様・ヨゼフ様と赤ちゃんも馬小屋の中で同じ冷たさ、寒さを感じた事でしょう。その夜の歌も又、特別でした。天使たちが羊飼いにアナウンスした様に私たちも歌を楽しみ、一生懸命歌いました。

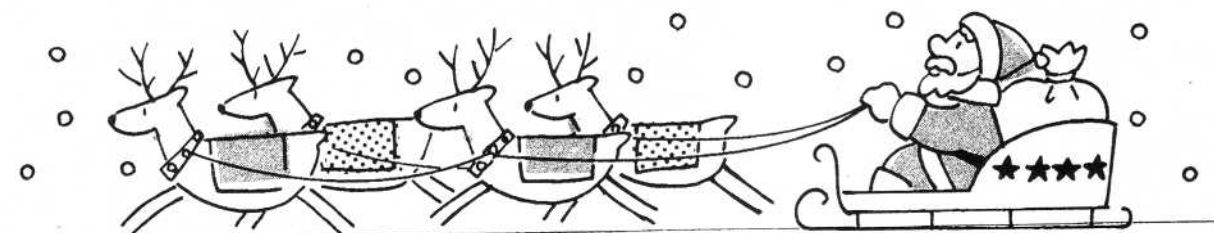
しかし、私たちはミサに行く前に一年中で一番楽しい行事、家族みんな揃って食事を取りました。そのメニューは、だいたい魚のスープに始まり、ホームメイドのサラミ、焼いた子羊。最後はその夜だけ食べる特別のデザート！蜂蜜とアーモンドで作ったデュロンと言うものです。いろいろなデュロンの種類でお母さんは皆の為にこのデザートを準備しました。そして、お母さんの手で一人一人のお皿に分けてくれました。最初に貰うのはおばあさん、二番目がお父さん、次は、長男、次男、三男.....私は8番目なので、それを横目で見ながら、私の分はあるかなア？と心配しました。勿論ちゃんとみんなの数ありました。そしてお母さんは一番後にとりました。

その夜、食べる前にお父さんは祝福の祈りをしました。そして、「今夜はどうしてごちそうを食べるか知っていますか？」と聞きました。「知ってる！知ってる！今日はイエス様のお誕生日だから...」とみんな答えました。

お父さんとお母さんのお誕生日はたまたま同じ8月30日でしたが、その日よりクリスマスの方がもっとごちそうだった。いつも自然にイエス様が一番！と覚えていました。今、教会でも「イエス様が一番」の歌はよく歌われます。

私が初めて日本に来たのは32才でした。

クリスマスの夜、行列もあり、ミサもありました。でも、楽しい夕食の時間はありませんでした。その夜、私は日本にいるのが、一番淋しかった！40年たった今でも何かもの足りないと言う気持ちは変わっていません。しかし、毎年その夜とそのシーズンは馬小屋の前でじっと祈りながら、牛や馬のように沈黙し、観想するのは大好きです。神秘的な中に感謝しなければならない事がいっぱいあるからです。



## ひとりの幼子、この方は《私たちと共におられる神》

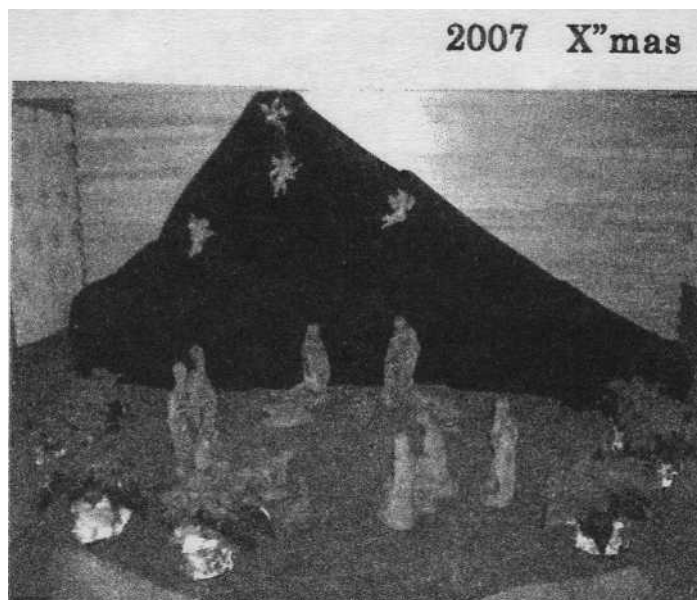
生まれたばかりのひとりの幼子  
他の幼子たちと変わらぬ幼子  
母親の腕に抱かれて眠っている幼子  
この幼子こそ神の子、待ち望まれた救い主

神は私たちと出会うために来られる  
恐れを抱かせる権力のしるしのうちにではなく  
愛を願う幼子の弱さのうちに  
馬小屋で生まれ  
まぐさ桶をゆりかごとする《貧しい幼子》の姿で

それにもかかわらず、あの夜の沈黙の中で  
喜ばしい知らせが鳴りひびく  
《あなたがたに大きな喜びを告げる  
今日、あなたがたのために救い主がお生まれになった》

喜びとは、救われているとの確信  
私たちの喜びは、それはイエス  
《私たちと共におられる神》ご自身である

生まれたばかりの貧しい幼子  
この幼子の上に神の顔が光り輝く

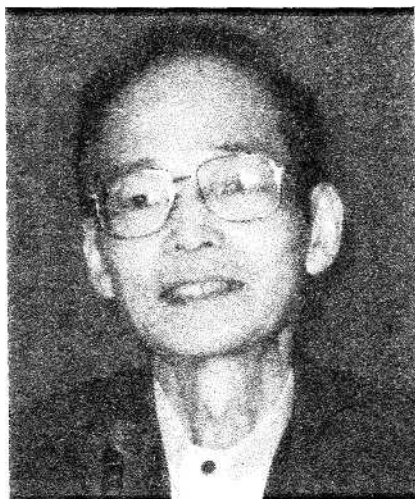


## 《 目 次 》

|                               |            |              |
|-------------------------------|------------|--------------|
| <u>聖 句</u>                    | .....      | 1            |
| <u>スペインのクリスマス</u>             | シリロ・オラデレ神父 | .....2       |
| <u>ひとりの幼子、この方は私たちと共におられる神</u> |            | .....3       |
| 目 次                           |            | .....4       |
| <u>病む人とのかかわり</u>              | 藤原 昭神父     | .....6       |
| 稲田豊神父様の思い出                    |            | .....(8~9)   |
| 共に捧げるミサ                       |            | .....(10~11) |
| 敬老の日おめでとうございます                |            | .....(12~13) |
| <u>美しい地球を子供たちに</u>            |            | .....9       |
| 住吉・神戸中央教会合同ミサ・バザー             |            | .....(15)    |
| キリストを書く展・追悼祭                  |            | .....(16)    |
| セニョール・デ・ロス・ミラグロス              |            | .....(17)    |
| 七五三おめでとうございます                 |            | .....(18~19) |
| 教会学校の子供たちに聞いてみました             |            | .....(20~21) |
| <u>図書コーナーから</u>               |            | .....10      |
| 信徒動静・教会日誌                     |            | .....(23)    |
| <u>後 記</u>                    |            | .....10      |

題字: 千葉 健吉  
表紙画: 南浮由美子

太字はこのホームページ掲載 PDF ファイルのページ、カッコつきは原本のページです。



## 《病む人とのかわり》

### 藤原 昭神父様待降節黙想会講話より

12月2日(待降節第一主日)、主日ミサ後、藤原 昭神父様(フランシスコ会)の待降節黙想会の講話が聖堂で行われました。神父様は姫路の聖マリア病院チャプレンを12年なさっております。以下は抜粋です。

藤原神父様は箕面教会のご出身で、若い時にしばらく教会とはご無沙汰の時期がありました。その後、中国を経て日本に来られた外国人宣教師との出会いがあり、その方の日本語はあまりお上手ではなかったが、その温かいまなざしとその師の後ろにいらっしゃるキリストに重なって召し出しにつながったとのこと。

「召し出しの道は一つではなく、その人が持っているもの(魂の渇き、生まれる前から神に呼ばれている方も有り)には、いろいろな形の神からの語りかけがある。」とのお言葉の後、神父様御自身は、自分が本当に神に呼ばれているかを識別するのに2年位かかった事、その後は司祭をやめようと思った事はないと言われました。

待降節の準備として・・・悪い行いの反省と共に見えていないところを見るように。(神父様はちょうどこの日から飾られたポインセチアの花を指しながら)見る場所、見る角度を変えると花のいろいろな面が見える事を示して下さい、この考え方がこの日の福音の中の一節「いつも目を覚ましていなさい」(マタイ24 37～44)につながってゆきます。

私たちは日常性(ノアの箱舟に入るまでの生活と同じように)がずっと続くように思っていて目の前の事に心を奪われているけれど、病気をしたり年を取ると出来なくなる事がたくさん出てきて、人の世話にならないと生活出来なくなる時が来る・・・ということ、何か起きた時点で戸惑わないように普段から意識することが大切。目の前の生活が一部であることを認識し、隠れた部分に気付きなさい。

「いつも目を覚ましていなさい」と、いろいろな角度からキリストは言葉を下さっていると言われました。

## 病んでいる人とのかわり

まず共同体の中でその人が忘れられていないという事を病人が分かっている事が大切。(マタイ10-6 イスラエルの失われた羊のところへ行きなさい)聖書の中で使われている癒すという言葉は、治す・治療するより、心を癒す・お世話する

という意味の方が多用されている。(マタイ 10 - 8 病人を癒しなさい)

病人への癒しの出発点は、病人の不安(病気・仕事・経済的なこと・誰が世話をしてくれるか等)を和らげること。それには、お医者様はじめ取巻く人たちのサポートが多ければ多い程その人の不安は和らぐ。神父様が身寄りのない病人と共に聖書を読み進むうちに病人が力を得てくるというお話から、人間は一人では生きてはゆけない。人との交わりが大切。これをイエス様は愛といわれる。人との関係は私とあなたという一人称と二人称の関係が大切だとおっしゃいました。

愛を育む一つのヒントとしてフランシスコ会の修業方法

神のみことばを読む、聴くことに集中する。  
魂の深い愛を持って反芻し、繰り返し味わう。  
この喜びを心ゆくまで味わう。

元気なものが病人を理解する事は難しい。経験と共に愛が育まれると共感でき本物になる。キリストが深い愛を示されたのは神から来られた方だからであるけれども、それ以外に30歳までの私生活の人生経験が隠れていると思われる。

病人との会話で気をつけること

言葉は難しいものなので「今日のご気分はどうですか?」という聞き方が良く、元気そうとか顔色がどうか検査の結果は?とかは言わないほうが良い。励ますと逆に落ち込むときがある。状態は悪くても気持ちはしっかりしている方もあり千差万別。こちらの思いを先に出すのではなく病人から発せられる言葉を待ち、それを反復すると会話につながるので、話される内容に付き合い、寄り添ってあげる事。病人の目線に合わせて、かかわる中で一緒に祈る時が見つかってゆく。

コミュニケーションの大切さ

患者と家族は、治療法の選択肢・決定・相談などを定期的に持つ事が大切。  
教会の奉仕活動チームと病人とその家族とのかかわり。  
病院窓口とのコミュニケーション。

どこまで介入するか判断

個人的に長くかかわっているほど難しい。そのためにもチームを作ると良い。(他の人から情報、知恵をもらえる)かかわりの距離も大切。

生きることを意味を失う時

病気の方が元気な時に考えない「生きる意味」の問いかけを、病を得てなされる時は、ルカ 24 13 で復活されたイエス様が旅人として弟子に寄り添って話をされた



目次

ように、私たちも寄り添って話しを聞かせてもらうようにしたい。

何かを話す時、または祈る前に、「キリストと一緒に歩いて人生を支えて下さるよう  
に祈りましょうね」と応えてあげる事が大切。

不条理に（原因不明・理由不明）病気になって、「なぜ？」といっても答えはない。  
それは聖書のメッセージの中に見つけることができる。

ヤコブの手紙 5 13~16 に病者の塗油の箇所があり、信仰に基づく祈りは病人  
を救い神が立ち上がらせて下さる。正しい人の祈りは大きな力がある・・・とあり  
ます。病人とかかわる人の祈りの心も大切、その思いを病人が感じられると癒しに  
つながる。

### 病人の心の動き

他者を拒否する時期もあり、時が来ると又受け入れられる。そっとしておく事も大  
切。今の医療は治療法等、病人が自己決定を迫られる場合が多いので慣れてゆかね  
ばならない。

### 自分で自分のことが出来なくなった人に対して

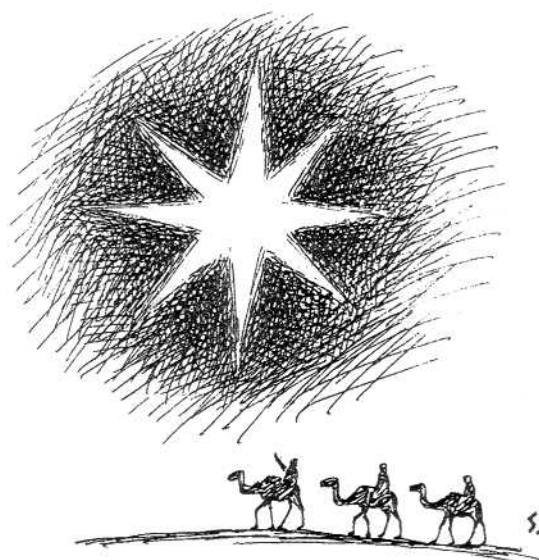
専門家の意見を家族も学ぶ事が大切。病人のいろいろな側面をチームで見ると  
（一人では同じ面からしか見ないから）広い角度から見る事が出来る。

### 最後に私達に・・・

「日常性の中で気付いていないことが多いから、共同体の中で、家族の中で、信仰  
者として、違う角度から振り返ることが大切です。」と結ばれました。

編集部

この世には素晴らしい人が  
なんとたくさんいるんだろう  
人は一人だけで生きているのではない  
と言った人は  
毎朝自分に「おはよう！」  
と言って起きるそう  
「今朝のいのち」へのあいさつ。







## 《 美しい地球を子供たちに 》

2007・9・27(月・祝日)

大阪カテドラル聖マリア大聖堂で聖トマス大学、レジオマリエ大阪セナートス主催の地球環境講演会があり、住吉教会からも多数の参加者がありました。ネットワーク『地球村』代表の高木善之氏の講演内容は、私達になんと多くの宿題を残された事でしょうか。(最初に壇上に、宇宙から見た青く美しい地球の写真がつるしてありました。)

宇宙から地球を見た人達は必ず「人生観が変わった」と言われ、国家間の権力争いや競争などは意味を持たないものに思えるそうです。そのような体験がなくても、物事を「よく見る よく聞く よく受け止める

よく解る よく受け入れる」この「五事」を身に付ける事で、人生は変わり、その人のふところの深さにもなると言われました。

日本は世界で最もゴミの多い国の一つであり、それは事実を知らせようとしない行政と知ろうとしないで消費に走る私たちの責任。

**グリーン・コンシューマー**(環境意識の高い人々)は、ヨーロッパでは人口の70%、日本でははたして?%いるだろうか。**ゴミ減量の4原則、止める・減らす・再利用・再使用**を心がけ、日本にも100万人のグリーン・コンシューマーを作りたい。

食料とエネルギーの自給率に関して

食料 = アメリカ 132%、EU 37%、ロシア 99%・中国 100%・

北朝鮮 78%、日本 28%

エネルギー = アメリカ 72%、EU 37%、ロシア 173%、中国 98%、

インド 82%、日本 4%

・各国は食料の自給率を増やす努力をしているが、戦後60年間、日本は食糧生産を犠牲にして工業化を進めてきた。

・日本での1955年の食料廃棄率はわずか5%だったが今は30%。

原発 = アメリカと日本以外の国々は完全廃止の方向である。イタリア1990年全廃、ドイツ、スエーデン、オランダ2020年全廃予定。

家庭の冷蔵庫の品は古い物から使用するのに、店で買うときは並んでいる奥の方から取る。(期限切れ廃棄が増え価格高は消費者に)

このまま温暖化が進めば、100年先ば海面は5メートル上昇、50の国が消え、森林は50年で砂漠化する。

この「美しい地球」を次世代の子供たちに残す為に私達は何をすべきかをよく理解し、受け入れて生活したいと思いました。 編集部

## 《 図書コーナーより 》

二階ロビーの図書コーナーも少しずつ新刊本、ご寄贈本が増えてきました。  
このコーナーでご紹介する本は全て図書コーナーにあります。  
どうぞご利用ください。

### 〔新刊紹介〕

「無名の順礼者」 あるロシア人順礼者の手記

A・ローテル訳 斎田靖子訳 エンデルレ書店

「絶えず祈りなさい」テサロニケ5章

ロシアの無名の順礼者である一介の農夫が、人との出会い、いろいろな出来事に遭遇しながら「祈ること」を探し求めて旅をします。  
赤波江神父様ご紹介の本です。

### 【 後 記 】

稲田神父様が亡くなられて三ヶ月あまり、思い出のひとつに予言がある。  
日曜学校へ通っていた次男が、ある時(洗礼を受けていないのに)他の教会の神父様からご聖体を受けたということを知って私は驚いた。稲田神父様は「きっとこの子は洗礼を受けるよ」と予言。中学生になった次男は教会から離れたが、高校生になって突然要理勉強を始め稲田神父様から受洗した。あの予言があたった。 松田

教会にいらっしゃった方に挨拶しよう、声を掛けようといつもいわれます。私自身振り返ってみて、神父様に声を掛けて頂き「聖書・神様」を知り、洗礼のお恵みにも与りました。

稲田豊神父様・生藤達男神父様です。お二人の神父様を通しての神様の声を聴けて、今私はこれを書いています。神に感謝。 井本

### ホームページリニューアルのお知らせ

若い方達の尽力により7月下旬に大幅に内容が充実しました。まだの方は是非一度ご覧下さい。アドレスは下記と同じです。

「すみよし」第173号

発行日： 2007.12.24

編集・発行： 広報チーム

編集責任者： 竹内和美

発行所： 神戸市東灘区住吉宮町2-18-23

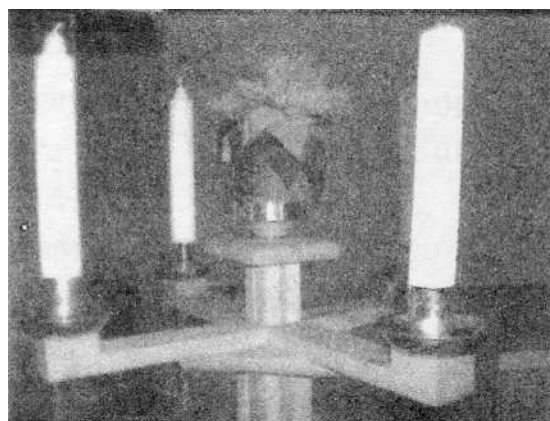
カトリック住吉教会

TEL: 078-851-2756

FAX: 078-842-3380

<http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp>

製版・印刷： 信徒有志



目次